

Presentation Tips

山田 知明

明治大学

tyamada@meiji.ac.jp

2013年5月17日



Table of Contents

For Good Presentation

Prepare Presentation Slides

Giving a Talk

Tips

Reference

プレゼンテーションをする前に

- プレゼンテーションはコミュニケーション
- 伝えるべきこと
 1. 直観 (Intuition)
 2. 含意 (Implication)
- 新しいテクノロジーを利用しよう
 - プロジェクター、パワーポイント、エクセル etc.

プレゼンテーションをする前に

- 事前の準備と練習が全て!
- なぜこのプレゼンテーションを聞く価値があるのか?
- 聞き手は否応無しに話を聞かないといけない ⇒ 楽しませよう
- シンプルなほど良い
 - ただし授業のように頭をつかう場合は例外

スライドを準備する

- スライドを作成する前に、紙と鉛筆でアイデアをまとめる
- 「このスライドで何を話すか?」を決めておく
- スライド間のつながりを意識する
 - 我々はどこに向かっているのか?
- プレゼンテーションはミステリー小説ではない
 - ⇒ 結論を最初に持ってくる
 - 後で話す事は「後ろに」持つて行く

スライドを準備する

- 言葉と数式、図表
 - どれが一番、伝わるのか？
- フォントは大きく
- 長い文章を書かない
- 黒に固執する必要はない
 - ただし、やりすぎないように

一般的なプレゼンテーション

- お婆ちゃんに説明してみよう
- どこからどこまで話をするか?
 - オーディエンスが持っている予備知識は?
 - 「これ位、知っていて当然」?
- 全てを話すことは不可能
- ロードマップを描く：3点ルール
- 緊張をしないための鍵は「失敗すること」

授業・ゼミでのプレゼンテーション

- 30分を目安にプレゼンテーションを設計する
 - 質疑応答の時間が加わる
- ハンドアウト(レジュメ)はどうやって使うべきか?
 - 例えば、大きな表
- 時間を測る：何分までにどこまで話をする?
- 図表は全てを使う必要はない
- ホワイトボードを使う

プレゼンテーション中

- シャベリ方：手振り、抑揚、間、音量、スピード
- 立ち方
 - 正面を向く：スクリーンと会話をしない
 - 天井を眺める、スクリーンの前をうろうろする
- 手はどこに？
 - ポケット、ジェスチャー
- 注目してもらうためにポインターを使うのは OK
 - ただし、ポインターを振り回さない
- 発表用の原稿を持つべきか？
 - 慣れないうちは文章に起こしておく
 - 読まない!
- 主語は？

スライドにはタイトルをつけよう

- 最適なスライドの枚数は？
- 1枚につき、1～3分位
- 私の場合：90分の講義でスライドは20枚未満

スライドにどこまでエフェクトをつけるべきか？

- おそらく

スライドにどこまでエフェクトをつけるべきか？

- おそらく
- これは

スライドにどこまでエフェクトをつけるべきか？

- おそらく
- これは
- やり過ぎ

箇条書き

- よくあるスライド
 - 細かい項目
 - 更に細かい項目：これ以上は細かすぎ?
 - 番号を振っても良い
1. 1番大切なこと
 2. 2番めに大切なこと

質問と答え方

- Clarifying Question は歓迎する
- あらかじめ質問されそうな箇所を予想
- 回答を用意しておく
 - 場合によっては、バックアップスライドを準備
- 冷静に答える
- 別の説明の仕方を考える

その他

- 言い訳をしない
- 自信のない素振りをみせない

Steave Jobs 風

Think Different

参考資料

- 小浜裕久・木村福成『【第3版】経済論文の作法』日本評論社、2011年
- 黒田登志夫『知的文章とプレゼンテーション』中公新書、2011年
- カーマイン・ガロ著『スティーブ・ジョブズ 脅威のプレゼン』日経BP、2010年
- Thomson, William (2011), "A Guide for the Young Economist, Second Edition," The MIT Press.
- Some useful links in English:
<http://faculty.wcas.northwestern.edu/~mdo738/teaching.html>